

研究成果

切り花ハボタンの切り花長確保のための定植時期と電照の効果

～‘初紅’は8月上旬の定植、電照により60cm以上の切り花本数が増加する～

1. はじめに

切り花ハボタンは商品価値の高い60cm以上の切り花長を確保することが重要となるが、紅系品種は切り花長を確保することが難しい。ここでは、60cm以上の切り花長を得るための定植時期と併せて電照処理による切り花長伸長効果を検討した。

2. 試験方法

1) 定植時期が切り花品質に及ぼす影響 (実験1)

紅系‘初紅’および白系‘晴姿’を288穴セルトレイに播種し、14日間育苗した苗を2012年8月6日、8月16日、8月27日の3時期に定植した。

2) 電照が切り花品質に及ぼす影響 (実験2)

‘初紅’を実験1と同様に育苗し8月16日に定植した。電照の時間帯を早朝(日の出前5時間)、夕方(日没後5時間)、深夜(22～2時)とする3区と無照射区の計4区を設けた。電照は白熱灯を用い、9月3日～11月1日に行った。

植栽方法は畝幅150cm、株間7.5cm、条間15cmの6条植えとし、基肥は窒素、リン酸、カリをそれぞれ7.5、9、7kg/10a、追肥は3回行い窒素成分で合計6.6kg/10a施用した。試験区は、1区1.2m²の2反復とし、12月21日に各区から10本を無作為に収穫して調査を行った。

3. 試験結果

1) 定植時期が切り花品質に及ぼす影響 (実験1)

切り花長は、定植時期が早い区ほど長くなり、‘初紅’では8月6日、‘晴姿’では8月6日、16日に定植した区で70cm以上となり、これらの区の上物率(切り花長60cm以上の切り花の割合)は100%となった(表1)。茎径、外葉径の大きさは各区で明らかな差異は認められなかった(表1)。

2) 電照が切り花品質に及ぼす影響 (実験2)

切り花長はすべての電照区で60cm以上となり、電照区の中では、深夜区で最も長くなった(図1)。電照区の上物率は、無処理区の56%に対して95%以上と無処理区よりも約40%向上した。茎径、外葉径は各区で明らかな差異は認められなかった(データ省略)。

4. まとめ

‘初紅’では8月6日、‘晴姿’では8月16日以前に定植することにより、60cm以上の切り花が得られた。また、電照を行うと‘初紅’においても、8月16日の定植で60cm以上の切り花本数が増加したことから、電照処理は、定植時期が遅れた場合や切り花長を確保しにくいほ場での活用が考えられる。

(栽培部 宮前治加)

表1 定植時期と切り花ハボタンの品質

品種	定植日	切り花長 (cm)	切り花重 ^z (g)	茎径 ^y (mm)	外葉径 ^x (cm)	上物率 ^w (%)
‘初紅’	8月6日	71.7 c	115.2 b	12.1 b	12.9 a	100.0
	8月16日	59.7 b	99.2 a	11.2 a	13.0 a	56.4
	8月27日	48.2 a	85.8 a	11.1 a	13.0 a	0.0
‘晴姿’	8月6日	83.7 c	130.5 b	11.6 a	12.0 a	100.0
	8月16日	71.4 b	121.3 b	11.3 a	12.7 b	100.0
	8月27日	57.7 a	96.4 a	11.3 a	12.2 ab	30.0

同一品種内、異なるアルファベット文字間にTukeyの多重比較で5%レベルで有意差あり

^z 着色葉と緑色葉3重を残して調製した切り花の重さ

^y 茎長の中央付近の茎径

^x 出荷調製後の葉の最大径

^w 切り花長60cm以上の切り花の割合

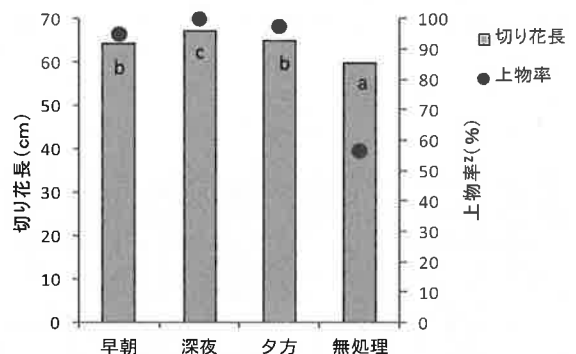


図1 電照の時間帯と切り花ハボタンの切り花長

^z 切り花長60cm以上の切り花の割合

異なるアルファベット間にTukeyの多重比較

で5%レベルで有意差あり